

トリさんあつまれ～🐦

はにゆうしりつとしょかん

<p>「ことり」 中川 ひろたか/ぶん 金の星社 E/コ/ハジメテ ことりが1羽、2羽と集まってきて10羽に。そこへ 猫がそろりそろそろとやってきて、思いきり小鳥に向かってジャンプ! そうしたら小鳥は…。</p>	<p>「鳥の巣いろいろ」 鈴木 まもる/作 偕成社 E/ト 鳥は、たまごをうむとき巣をつくります。巣のかたちや大きさ、つくり方は、鳥の種類によって、いろいろです…。</p> 
<p>「とりがいるよ」 風木 一人/さく KADOKAWA E/ト/ハジメテ あかいとりや、あおいとり。おおきいとり に、ちいさいとり。さあ、みつげられるかな? かず、いろ、大きさに初めてふれる、あかちゃん絵本。</p>	<p>「とべたよとべたよ」 わかやま しずこ/さく 童心社 E/ト 小鳥のひなたちが生まれました。おなかをすかせたひなたちは、お母さんお父さんに青虫をねだります。やがて大きくなったひなたちは…。</p> 
<p>「かかしのじいさん」 深山 さくら/文 佼成出版社 E/カ かかしのじいさんの仕事は、すずめを追っ払うこと。けれど、すずめはじいさんを慕い、いつしかじいさんもすずめを待つように。そんなある日、お百姓さんがかすみ網をかけようと…。</p> 	<p>「ことりのピチコ」 どい かや/作 学研 E/コ この春生まれたことりの女の子・ピチコ。両親に大切に育てられ、やがてひとりで飛べるようになったピチコが体験した、生まれてはじめての「友だち」との出会い…。</p> 

<p>「3わのこどりのはなし」 ブルーノ ムナーリ/作 フレーベル館 E/サ 3羽のこどり、ティオ、ティア、チは、どうしてとりかごの中にいるのかな? 3羽が語る、それぞれの生い立ち話を聞いてみましょう。子どもとの会話がはずむ、楽しいしかけ絵本。</p> 	<p>「あきちゃった!」 アントワネット ポーティス/作 あすなろ書房 E/ア 「チュン」と鳴くことに飽きてしまった茶色い小鳥は、へんてこりんな歌を思いつき、鳴いてみました。いい感じだと思っただけですが、真面目なカラスに怒られて…。</p> 
<p>「ロボットとあおいことり」 デイヴィッド ルーカス/作 偕成社 E/ロ はたら働だけ働いて心臓が壊れてしまったロボットは、ゴミの山にすてられてしまいました。そこへやってきたのは、南の国へ渡りそびれた青い小鳥でした…。</p> 	<p>「つばめのハティハティ」 箕輪 義隆/絵 アリス館 E/ツ つばめのハティハティは、インドネシアから日本までやってきました。女の子のつばめプティと出会って、5羽の赤ちゃんが生まれますが…。</p> 
<p>「ことりだいすき」 なかがわ ちひろ/作 偕成社 E/コ 鳥になりたいさと。砂漠のダチョウがいいかな。それともペンギン? 歌が上手でおしゃれで人気者の鳥になりたいな…とゆめみていると、あっ! 道路に小鳥が落ちていた!</p> 	<p>「とりがないてるよ」 ヨアル ティーベリ/ぶん 福音館書店 E/ト アオガラはツイスィーツィスィー、ズメはチュチュ…。鳥の鳴き声をつづった、スウェーデンの絵本。</p> 
<p>「パリの青い鳥」 ヴェロニク ウィルマン/作 BL 出版 E/パ ママとはぐれてしまったジャンの元に、一羽のハトがやってきました。パリを知りつくしたハトは、ジャンを家まで送りとどけますが…。</p> 	<p>「とりづくし」 内田 麟太郎/作 鈴木出版 E/ト ことり、ちりとり、きれいずき。きれいなへやに、うっとり、ことり…。あんな「とり」、こんな「とり」、そんな「とり」? 「とり」づくしの、楽しいことばあそび絵本。</p> 